

散布型除菌剤を動物園で実証散布

当センターは企業や大学とともに「散布型除菌剤」を開発し、福知山市動物園の協力を得てフィールドでの検証を行っています。

当センター内での試験では、散布後8週間までの除菌効果を確認したことから、同動物園で昨年12月23日に散布した資材を8週後の2月28日に回収しました。今後、京都産業大学において鳥インフルエンザウイルスを用いた不活化効果試験を実施する予定です。

また、除菌剤は追加散布を実施しており、検証を継続すると共に土壌pHの違いによる効果の持続性についても調査することとしています。



フェンス手前に除菌剤を散布し、野生動物を介した菌やウイルスの侵入防止を目指す



効果の持続性に影響を及ぼす散布土壌のpHを測定